

1学期を土台とした、2学期の子供たち

2学期が始まり、早くも9月も2週目です。2学期の校長室便りの配信を始めます。

今年度の1学期と同様か、または、それよりも落ち着いて2学期の学校生活が始まっています。残念ではありましたが、始業式の日から数日程、家族の手術対応でお休みをしたり、早く帰ったりという状況で、子供たちの様子をしっかりと知ることが難しいところでした。

今週の7日の月曜日からは、積極的に校舎内や矢川の様子など、できるだけ多くの様子や状況を知ろうと校内巡回に出かけています。また、この7日の月曜日は、台風と秋雨前線の影響で大雨等の対応もあり、保護者の皆様にもご理解とご協力をいただきました。ありがとうございました。

その中でも、子供たちの元気で頑張る姿があり、挨拶を校長室前でする子どもや、私を見つけて、お辞儀をしながら挨拶をする子どもなど、今年度の頑張りの姿が見られるのは、本当に嬉しいものです。

「頑張る人は、偉い人」という言葉を私の恩師から教えていただいたことがあります。現在の世界では、頑張ることを推奨することが昭和の在り方ように捉えて、少し否定的に話されることをSNSなどで見かけることがあります。それぞれが様々な思いをもつことは、とても大切です。

しかし、その思いが前向きであるかとか、自分を否定的に考えること等、その人の生き方や状況を知ること、生き様の背景を知ることにより、その言葉のもつ意味や力が理解できると思います。言葉や行動は、とても大きな力を持ちます。相手を気持ちよくし、辛くさせることもあります。自分の言葉や行動をよりよくしていくためにも、挨拶やふわふわ言葉、その挨拶や言葉を発する時の行動に意識して、この2学期にますます頑張って、次の学年末の3学期の土台にしてほしいと願っています。私も頑張りたいと思います。真に「偉い人」を目指していきます。

道徳授業地区公開講座を開催します。

9月18日(金)に道徳授業地区公開講座を行います。子供たちの授業の様子を参観いただくとともに道徳の授業を通して、「心を遣う訓練」とも言える授業をご覧ください。保護者の皆様も、子供たちと同じ立場になって考えていただき、自分の心を動かしたり、考えを巡らせたりしてください。正解はありません。皆様がもった思いや考えが、全て正解といえます。その思いや考えを否定するのではなく、そういう思いや考えに至る自分の思い方や考え方を知り、これからの様々な出来事に適切に対応できる力を養っていくことを目指します。そこが道徳の大切なところです。

その力を身に付けていくために道徳の教科書を通して、以下の内容を学びます。

「A 主として自分自身に関すること」では、「善悪の判断、自律、自由と責任」「正直、誠実」「節度、節制」「個性の伸長」「勇気と希望、努力と強い意志」「真理の探究」の6つ。

「B 主として人との関わりに関すること」では、「親切、思いやり」「感謝」「礼儀」「友情、信頼」「相互理解、寛容」の5つ。

「C 主として集団や社会との関わりに関すること」では、「規則の尊重」「公正、公平、社会正義」「勤労、公共の精神」「家族愛、家庭生活の充実」「よりよい学校生活、集団生活の充実」「伝統

と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」「国際理解、国際親善」の7つ

「D 主として生命や自然、崇高な物との関わりに関すること」では、「生命の尊さ」「自然愛護」「感動、畏敬の念」「よりよく生きる喜び」の4つ。

以上の内容が小学校から中学校までの義務教育の間で系統的に学ぶよう配置されています。

A から D の内容は、見ていただいて分かるように自分の内面から外に向かっての内容となっていて、その内容が学年の発達段階に沿って配置されています。その学年で学ぶ内容項目に従って、計画的に学ぶのが、教科化された今の道徳となっています。

【講演会へご参加ください】

学校便りでもお知らせしておりますが、4時間目に講演会の講師として、助産師の恒川由紀さんをお迎えします。恒川さんは、昨年度の6年生の日光移動教室で看護師として引率いただき、子供たちの安全と安心に尽力をいただきました。また、これまで助産師として見つめられてきた「命」に対する真摯な姿勢と心情に感銘を受け、引き続き、六小の看護師としてお願いさせていただいたところ、六小と関われることを喜んでいただき、今年度は、6年生の日光移動教室と5年生の野外体験教室の2回とも、看護師として務めていただきました。

ここ2年間、本校の児童と直接的に関わり、教職員の姿を見ていただいている恒川さんに、講演依頼をさせていただいたところ、ご快諾をいただき、今回の講演となりました。是非とも、多くの保護者の方にお越しいただき、道徳の目指す心を育てることと深い関連のある命について、共に学び合える場としていきたいと思えます。

明日の10日（木）に講演会の出席に関するお知らせを出しますので、ご参加いただける方は、申し込みいただけますよう、よろしくお願いいたします。多くの方のご参加をお待ちしています。

【校長のつぶやき】

大学の3年生の時から、学生指揮者として、合唱指揮をするようになり、これまで多くのピアニストや作曲家、指揮者などの音楽家の方とも、演奏会等でお世話になりました。

特にお世話になったのは、恩師の一人でもあります、大学の時の合唱団常任指揮者 中村 順一先生です。学生に厳しくも優しい指導で、多くの学生が憧れておりました。

たくさんの指導をいただきましたが、指揮法については私が独学で学んでいたこともあり、中村先生のレッスンの時の指揮を見て、見様見真似で身に付けたこともありました。また、合唱曲の編曲においても、音楽の世界に無知だった私が、自分が好きな男声合唱曲を混声合唱曲として編曲（アレンジ）をお願いしたところ、すぐに話に乗ってくださり、また、その作曲者が中村先生のお友達だったこともあって、ご本人に話をされたところ、編曲をされることとなり、なんと出版されることにもなりました。

私の不用意な言葉が、とてつもない大きな取組に変化した時には、冷や汗が出るとともに、中村先生のアレンジ作品として世の中に出せることの嬉しさもありました。定期演奏会では、中村先生ご自身の指揮により、最終ステージでアレンジ作品の初演として、私たちが演奏しました。

その曲が、フランスの詩による合唱曲集「月下の一群」訳詞 堀口 大学／作曲 南 弘明／編曲 中村 順一です。中村先生は、すでにお亡くなりになっておられますが、私や私の仲間の心に、今もしっかりと焼き付いています。今の自分がいるのも、恩師 中村順一先生のお陰です。